

普及記事

アカダマタケ (*Melanogaster utriculatus*) の分類学的扱いの変遷について

Historical changes in the taxonomic treatment of *Melanogaster utriculatus* (Paxillaceae, Boletales)

大前宗之^{1*}, 山本航平², 折原貴道³Muneyuki Ohmae^{1*}, Kohei Yamamoto², Takamichi Orihara³¹ 株式会社北研, 〒321-0222 栃木県下都賀郡壬生町駅東町 7-3

Hokken Co. Ltd., 7-3 Ekihigashimachi, Mibu-machi, Shimotsuga-gun, Tochigi 321-0222, Japan

² 栃木県立博物館, 〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町 2-2

Tochigi Prefectural Museum, 2-2 Mutsumi-cho, Utsunomiya-shi, Tochigi 320-0865, Japan

³ 神奈川県立生命の星・地球博物館, 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara-shi, Kanagawa 250-0031, Japan

* 主著者 (Corresponding author)

E-mail: trick.dontokoi.fungi@gmail.com

Article Info: Submitted: 27 June 2017 Published: 31 March 2018

緒言

メラノガステル属 *Melanogaster* Corda はイグチ目ヒダハタケ科に分類される、地下生菌からなる属である。国内からは、*M. broomeanus* Berk., *M. fusisporus* Y. Wang, *M. intermedius* (Berk.) Zeller & C.W. Dodge および *M. utriculatus* Y. Wang, Castellano & Trappe の4種が記録されている (勝本, 2010)。本属に属するアカダマタケには国内のほとんどの図鑑で *M. intermedius* の学名が充てられているが、佐々木ほか (2016) は *M. utriculatus* の学名を充てており、統一見解が得られていない。そこで本稿では、国内で比較的頻繁に採集される種であるアカダマタケの分類学的扱いについて、過去の文献を基に論考する。

日本産アカダマタケの分類学的背景

筆者らの知る限り、国内で初となるメラノガステル属菌の報告は、1971年、月刊誌「菌蕈」に掲載された吉見昭一氏の記録にさかのぼる。吉見 (1971) は、相良直彦博士が採集した京都府および大分県産標本に基づき "*M. nipponica* Sagara et Yoshimi sp. nov." として記載し、これにアカダマタケの和名を与えた。しかし、これはラテン語記載を伴わない、命名規約上非合法なものであった。吉見 (1971) はアカダマタケの標本 (No. 2237) に基づく子実体のスケッチ、ならびに検鏡図や写真を掲載し (図1)、さらに日本語による形態記載

も行った。興味深いことに、本種の形態記載と検鏡図において「短毛状突起」と表現される胞子表面から伸長する特異な毛状構造の存在が示されている (図1 “plate II”)。また、アカダマタケと類似した形状の胞子を持つ *M. intermedius* と比較して、「胞子の大きさ、形は同じであるが、短毛状突起はないのが区別点である」と明記されており、吉見氏が短毛状突起の有無を種の識別上重要な形質であると認識していたことが窺われる。ところが1980年代以降、アカダマタケの学名には同氏によって *M. intermedius* が適用されるようになった (吉見・高山, 1986)。吉見・本郷 (1989) は *M. nipponica* と命名した当初の標本 (No. 2237) の子実体のスケッチ (図1 “plate I”) を再掲したが、ここでも学名は *M. intermedius* に変更されている。その後、他の多くの図鑑において同様にアカダマタケの学名として *M. intermedius* が採用されたため (例: 今関ら, 1988; 本郷, 1994)、アカダマタケの学名として *M. intermedius* が定着した。

一方、吉見氏が最初に報告したアカダマタケの標本 (吉見 No. 2237) は、海外の研究者に渡り、*M. utriculatus* として正式に新種記載された (Wang et al. 2005)。Wang et al. (2005) はこの標本について、相良博士が1970年10月に京都市内で採集したもので、標本番号は OSC Yoshimi #2237 であることを明記している。すなわち、アカダマタケの標本 (吉見 No. 2237) は、吉見 (1971) によって非合法名である *M. nipponica* が与えられた後、同氏により既知種の *M. intermedius*

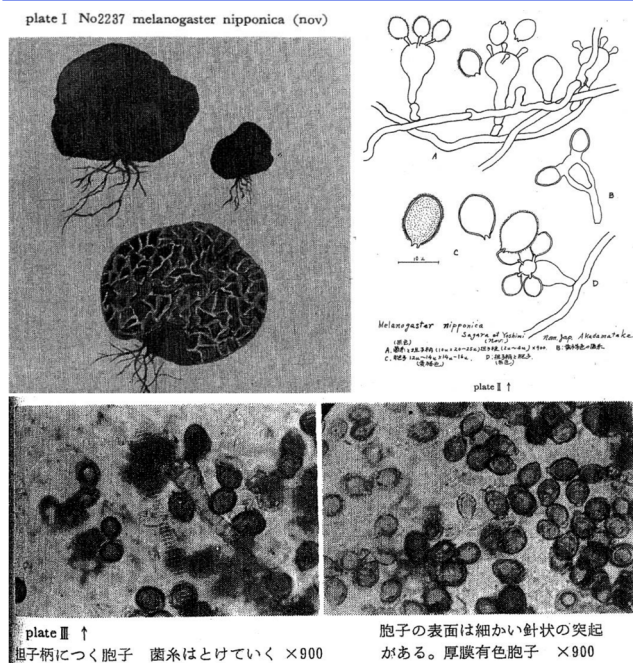


図1. 吉見（1971）によるアカダマタケ *Melanogaster nipponica* の図（引用元より転載）。plate I: 標本（吉見 No. 2237）の子実体外観および断面図（同一図は吉見・本郷（1989）にも掲載）。plate II: 検鏡図。plate III: 検鏡写真。

と再同定され（吉見・本郷, 1989）、最終的に Wang et al. (2005) によって *M. utriculatus* として正式に新種記載されるという複雑な経緯を辿った。佐々木ほか（2016）はアカダマタケの学名に *M. utriculatus* を採用する一方、本属未同定種のアナアキアカダマタケについて「本種は *Melanogaster intermedius* とされていた」と述べている。しかし、上述した分類学的背景を考慮すると、国内で *M. intermedius* とされていた種は *M. utriculatus* であると考えるのが妥当である。

続いて、吉見（1971）に示された短毛状突起について論考する。アカダマタケの胞子を観察すると、表面が平滑（図2A）、粗面（図2B）、さらには針状（図2C）に見える胞子が確認される。これは胞子表面を覆う透明な膜に可塑性があることに由来すると考えられる。すなわち、吉見（1971）が観察した「短毛状突起」は、胞子表面のしわ状の透明な膜を、毛状の突起と誤認識したことに由来すると推察される。吉見氏のアカダマタケの観察記録を辿ると、1971 年は「短毛状突起」（吉見, 1971）、1986 年は「細針状突起」と記述されているが（吉

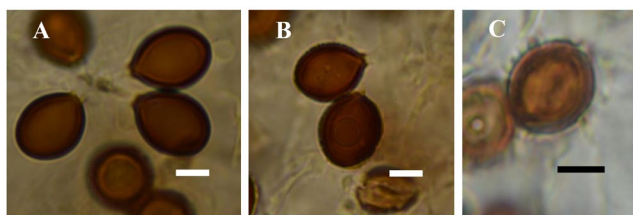


図2. 栃木県産アカダマタケ *Melanogaster utriculatus* (TPM-M-8971、栃木県立博物館収蔵) の透明な膜に覆われた胞子。A: 平滑に見える胞子。B: 粗面に見える胞子。C: 針状に見える胞子。スケール: 5 μm。

見・高山, 1986)、1989 年には、「胞子表面は付着物によって粗面に見える」と記述されており（吉見・本郷, 1989）、胞子の突起とみなした記述が見られなくなってゆく。最終的に吉見氏は、胞子表面のこのような構造を、種の識別上さほど重要視せず、胞子サイズや形状の類似した *M. intermedius* と同定したと推定される。一方、Wang et al. (2005) は胞子表面の構造を透明な膜とみなし、この特徴をもとに新種と判断し、*M. utriculatus* として記載するに至った。

上記の検討結果から、アカダマタケの正名としては佐々木ほか（2016）と同様、*M. utriculatus* を採用し、非合法名である *M. nipponica* および国内産 *M. intermedius* については *M. utriculatus* のシノニムとして扱うのが妥当と考えられる。この結果に基づき、以下にアカダマタケの分類学的位置について再定義を行う。

***Melanogaster utriculatus* Y. Wang, Castellano et Trappe, Mycotaxon 93: 315. 2005.**

= *Melanogaster nipponica* Sagara et Yoshimi, Kinjin 17 (3): 31. 1971, nom. inval.

= *Melanogaster intermedius* (Berk.) Zeller et C.W. Dodge sensu Yoshimi et Hongo in Imazeki et Hongo, Colored illustration of mushrooms of Japan Vol. II. 201. 1989.; non Zeller et C.W. Dodge, 1936.

謝辞

本報告を作成するにあたり、快くアカダマタケの標本を収蔵していただいた、栃木県立博物館の坂井広人氏、ならびに供試標本を提供いただいた宇都宮大学農学部の細野天智氏に深謝いたします。また、月刊誌「菌茸」に掲載された吉見昭一氏の記事から図を転載するにあたり、許可を頂いた一般財団法人日本きのこセンター菌茸研究所の福政幸隆博士、ならびにご協力いただいた長澤栄史氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

引用文献

- 本郷次雄 監修（1994）山溪フィールドブックス（10）きのこ。山と溪谷社、東京。
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄（編）（1988）日本のきのこ。山と溪谷社、東京。
- 勝本謙（2010）日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、千葉。
- 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀（2016）地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社、東京。
- Wang Y., Castellano M., Trappe J.M. (2005) *Melanogaster utriculatus* sp. nov. from Japan. Mycotaxon 93: 315–317.
- 吉見昭一（1971）分類・腹菌類（二）。菌茸 17(3): 31–33. [Yoshimi S. (1971) Bunrui Fukkinrui II. Kinjin 17(3): 31–33.]

- 吉見昭一・本郷次雄（1989）腹菌亜綱．今関六也・本郷次雄（編），原色日本新菌類 図鑑（II），pp. 193-228，保育社，大阪．[Yoshimi S., Hongo T. (1989) Gasteromycetidae. In: Imazeki R., Hongo T. (eds.) Colored illustrations of mushrooms of Japan, vol II. Hoikusha, Osaka, pp. 193-228.]
- 吉見昭一・高山栄（1986）京都のキノコ図鑑．京都新聞社，京都．
-